

セカンドフォローアップキャンプ参加者の変容

独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター 北湯口孝

セカンドフォローアップキャンプは、平成26年度から平成30年度までのキャンプ参加者全員に呼びかけ、希望者が参加できるフォローアッププログラムである。SDiCにはメインキャンプと、フォローアップキャンプがあるが、2度目のフォローアップキャンプということで、セカンドフォローアップキャンプと命名している。今回の参加者は、平成27年度が3名、平成29年度が5名、平成30年度が8名の計16名であった。

このセカンドフォローアップキャンプはメインキャンプからこれまでの生活を振り返る機会にすること、メンターや参加者といった仲間と再会すること、新たな生活に向けて目標を再設定すること、などが目的である。実際の参加者に参加理由を尋ねると、1年に1度の仲間と再会できる機会をととても楽しみにして参加した人もいれば、今の生活が上手くいっていないけれど、生活を立て直す機会として参加した人もいる。このように自分なりにセカンドフォローアップキャンプを有効的に活用している参加者が多い。

参加者だけではなく、我々にとってもこのセカンドフォローアップキャンプは大変有意義である。参加者の中には「キャンプに参加したことがきっかけになった」「ネット依存になったことは良くないことと思っていたけれど、皆と出会えたことや色々な体験ができた。ネット依存になったことも悪くないと思った」と感想を述べた人もいる。このような参加者の言葉や体験は我々に多くの学びを与えてくれている。

一方で半数以上のメインキャンプ参加者が、セカンドフォローアップキャンプに参加できない実情がある。そこには、実生活が忙しくなったことも理由であるが、ネットやゲームに熱中する生活に逆戻りしていることが理由の人もいる。そのような参加者へのフォローや転帰については、今後のさらなる調査や工夫が必要である。

■参加者の変容 ※個人が特定されないよう詳細には変更を加えている

A君15歳 高校1年生

本キャンプ参加時の様子：中学2年の時にいじめが原因で不登校になり、家ではオンラインゲームをして過ごしていた。ゲームのやりすぎを親から注意され、暴力に至ることもあった。中3になり生活は変わらずにいたが、久里浜に通院するのをきっかけにキャンプに参加した。キャンプ中は、最初周囲と溶け込むのが難しく一人になる時間を欲していたが、メンターが優しく話しかけてくれ、徐々に慣れていった。特に登山で「最初は無理だと思ったけど、最後まで登れてよかった」と嬉しそうに話す様子も見られた。キャンプ後、学校に登校することはなかったが、生活リズムの改善と自宅で勉強をする習慣ができ、高校に合格した。

セカンドフォローアップ参加時：高校入学後は毎日登校している。友達は少ないが、学校では楽しく過ごしていると話す。セカンドフォローアップキャンプではメンターや参加者と会えるのを楽しみにしていたと言う。夏休みがあげてから、ゲーム時間が伸びてしまっていることもキャンプに参加することでリセットしたいと話していた。キャンプ中はメインキャンプ時に比べて、積極的に活動したり、メンターの手伝いをしている姿が見られた。大学生になったらメンターになりたいと話すこともあった。最後の一言では、来年の自分がどうなっているか分からないけど、また参加したいと話していた。